

RESE A · · R CH LEX E RRES · · E AR C HLE
XER R · · ES E A RC HL EX E · · R R ESE R
CHLEX · · E R RES EAR CH L · · E X E
RRE S E ARC · · H LE XER RSER C · · H LE
XE RR ES E A · · RESE A RC HLEX · · ER RESE
A RCHL · · E XER RESEA C · · H LEXER · ·

GD.findi リリースノート

2016/8/31 詳細情報



LEXER RESEARCH Inc.

Virtual,
powering everything.

本書は、2016/8/31に公開したGD.findi およびGD.findi Reactor に関する以下の追加機能の詳細情報を説明するものです。

== 機能追加 ==

- ステーションの並列処理機能を追加（3頁～）

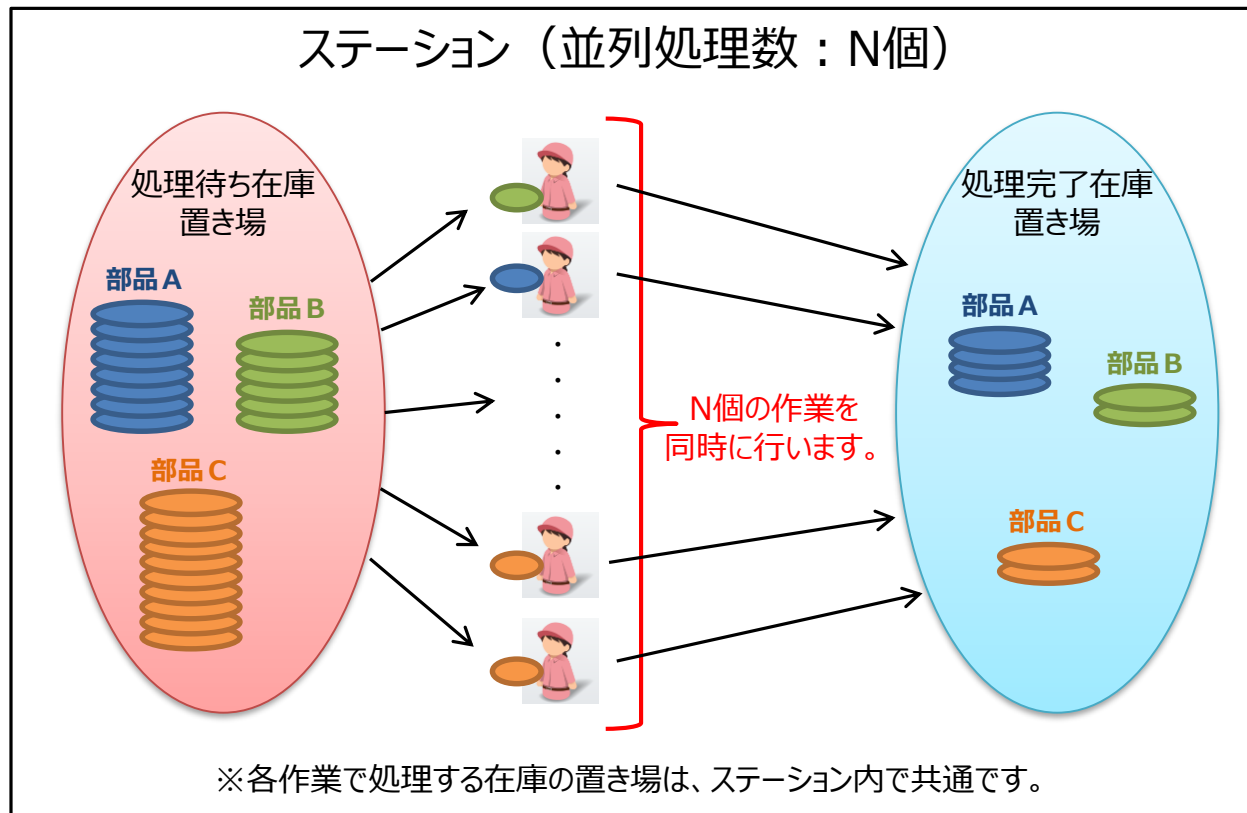
== 機能変更・仕様変更 ==

- 要素作業の入力支援機能を拡張（5頁から）
- 初期在庫の利用規則を変更（8頁～）
- ステータスログの出力形式を変更（10頁～）
- 搬送アクティビティの動作規則を変更（12頁～）

== 機能追加 ==
ステーションの並列処理機能を追加

1つのステーションで、並列に処理できるステーション・アクティビティ数を設定できるようになりました。

ステーションで並列処理が行われるときのイメージ図を以下に示します。



ステーションでの並列作業イメージ図

== 機能変更・仕様変更 ==
要素作業の入力支援機能の拡張

要素作業の入力支援機能の拡張

要素作業の入力支援機能として、用意しておりました「クリップボードテキストから作成」および「クリップボードテキストにて更新」の操作により、「Local Out」の出力部品が設定できるようになりました。

グループ1

新規作成
クリップボードテキストから作成

スマートフォン
BODY供給 1150
WRK BODY用部材 1 0

FPC供給 19 0
WRK4 FPC用ワーク 1 0

アンテナ供給 41 0
WRK3 アンテナ回路部材 1 0

...

生産プロセスフロー

加工1
加工2

組立1
組立2
組立3

アンテナ供給
パネル供給

BODY供給
ボード供給
FPC供給

外觀検査
機能検査
エージング投入
エージング

出荷梱包

詳細情報

製品
スマートフォン

名前

出荷梱包 0

要素作業時間[秒] 128

頻度作業(M[分]・消費時間[秒])

入力部品の設定 - 1サイクルあたり

部品ID	部品名 ▲	数量
Local In		
エージング		
WIP4	エージング済み中間製品	1

出力部品

部品ID	部品	生産個数
Local Out		
SMP	スマートフォン	1

「Local Out」の出力部品が設定できるようになりました。

更新 キャンセル

「Local Out」の出力部品を設定する際、クリップボードテキストにコピーする文字列の入力形式は、下記の通りです。なお「Local Out」の出力部品を設定するための項目以外では、入力形式に変更はありません。

● 入力支援機能で利用する入力形式例

スマートフォン				
BODY供給	115		0	
	WRK	BODY用部材	1	0

FPC供給	19		0	
	WRK4	FPC用ワーク	1	0

・
・
・
・
・
・

組立1	65		0	
加工1	BDY	筐体	1	1
ボード供給	BRD	電子基板	1	1
アンテナ供給	ANT	アンテナ回路	1	1

出荷梱包	128		0	
エージング	WIP4	エージング済み中間製品	1	1
	SMP	スマートフォン		1

出荷梱包	128		0	
エージング	WIP4	エージング済み中間製品	1	1
	(1) SMP(2)	スマートフォン	(3)(4)	1(5)

「Local Out」の出力部品を設定する入力形式
 (1) 空文字
 (2) 部品ID
 (3) 部品名
 (4) 空文字
 (5) 生産数量
 ※上記の例では、要素作業「出荷梱包」の「Local Out」への設定を示しています。

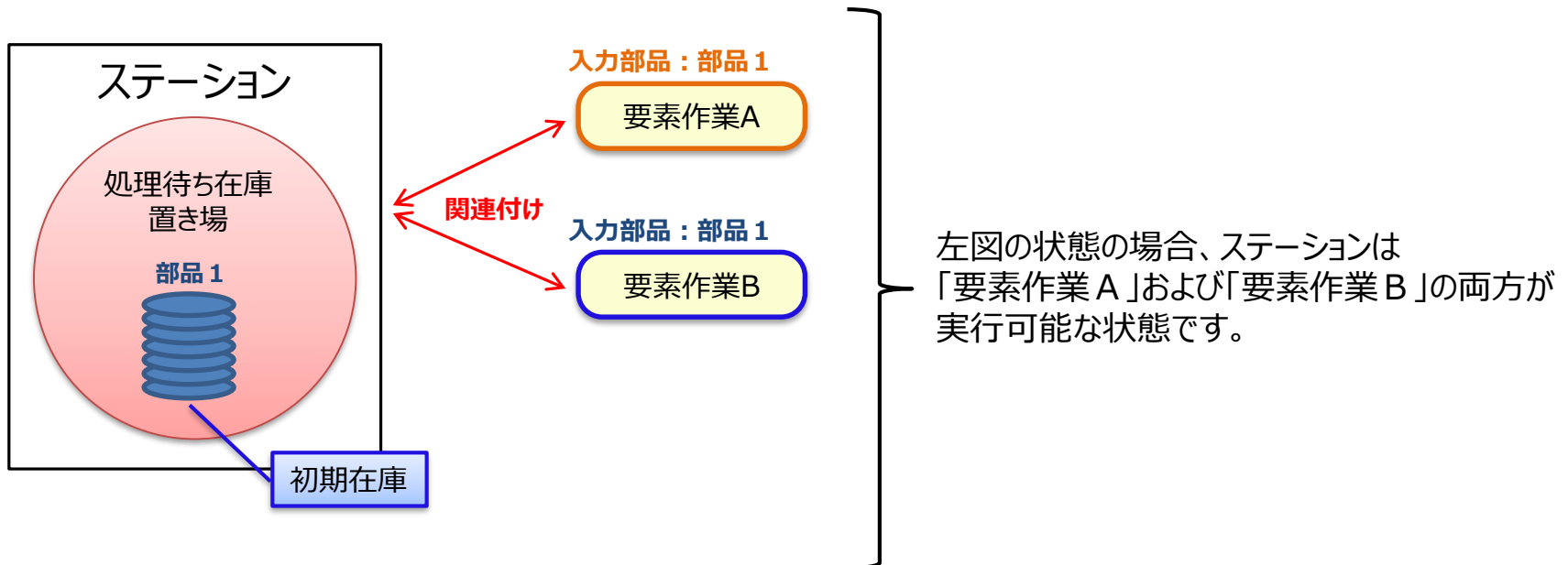
※上図は、見易さのため、セルに書式を設定しています。

== 機能変更・仕様変更 ==
初期在庫の利用規則を変更

初期在庫の利用規則を変更

ステーションの初期在庫に指定された部品が複数の要素作業の入力部品に設定されている場合、両方の要素作業で使用できるように設定を変更しました。

これまで初期在庫に設定された部品は、1つの要素作業でしか利用で着ませんでした。

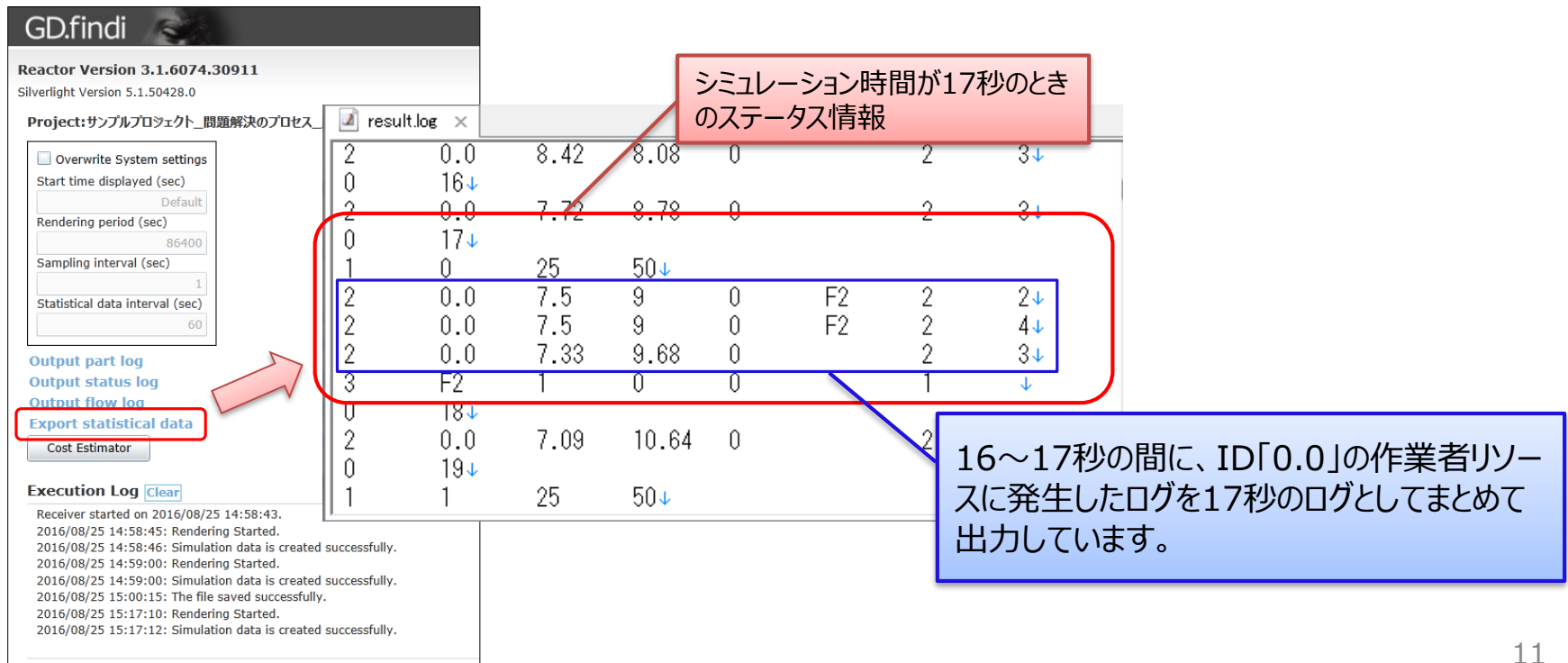


== 機能変更・仕様変更 ==
ステータスログの出力形式を変更

ステータスログの出力形式を変更

1秒の間にリソースに発生したイベントのログを1秒後のログとしてステータスログに出力するよう変更しました。

これまでステータスログには1秒間に発生したイベントは無視して、1秒後のステータスのみを出力していましたが、今後は無視されていたイベントのログが出力されるようになります。



The screenshot shows the GD.findi interface with a 'result.log' window. A red box highlights the log entries for simulation time 17 seconds. A blue box highlights the log entries for simulation time 16 seconds. A red arrow points from the 'Export statistical data' button to the log window. A blue box contains text explaining the change in output format.

シミュレーション時間が17秒のときのステータス情報

2	0.0	8.42	8.08	0		2	3↓
0	16↓						
2	0.0	7.72	8.78	0		2	3↓
0	17↓						
1	0	25	50↓				
2	0.0	7.5	9	0	F2	2	2↓
2	0.0	7.5	9	0	F2	2	4↓
2	0.0	7.33	9.68	0		2	3↓
3	F2	1	0	0		1	↓
0	18↓						
2	0.0	7.09	10.64	0		2	↓
0	19↓						
1	1	25	50↓				

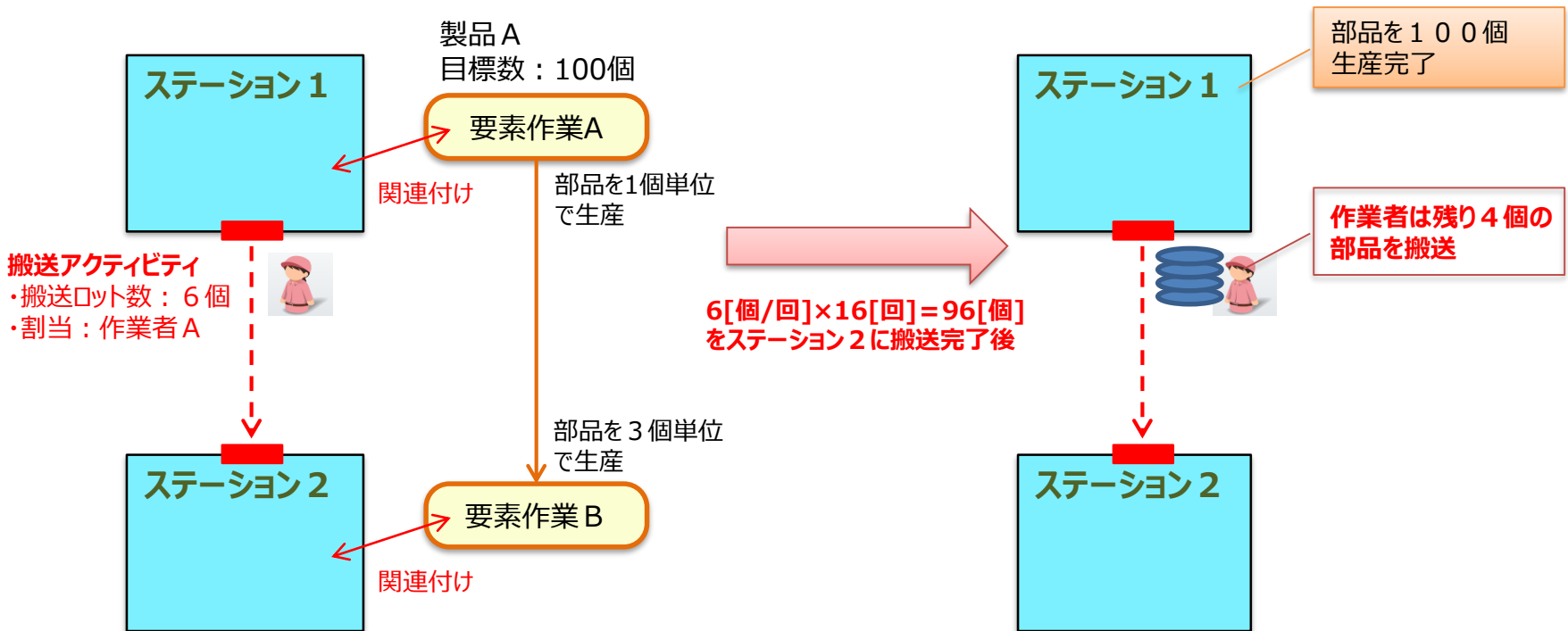
16~17秒の間に、ID「0.0」の作業者リソースに発生したログを17秒のログとしてまとめて出力しています。

== 機能変更・仕様変更 ==
搬送アクティビティの動作規則を変更

搬送アクティビティの動作規則を変更

荷積み部品が製品の生産目標数まで完了した場合、作業者リソースは搬送ロット数まで部品がそろっていなくとも、搬送アクティビティを実行するように変更しました。

具体例を以下に示します。



何かご質問などございましたら、下記アドレスまでお気軽にお問い合わせください。
E-mail : gdfindi_support@lexer.co.jp



<http://www.lexer.co.jp/>